「モノ」の各用法における意味のつながり

—本質的な意味とその展開—

陳　志文

キーワード：モノ、形而上、想像を超えた、帰結、本質の意味とその展開

要　旨

本稿は「モノ」の全般的な用法における意味のつながりを明晰に記述することを目的にするものである。その結果、「もの」の本質意味である「形而上」及びその展開の意味である「帰結」が軸として各用法においてつながっていることが判明した。

1．はじめに

我々は日常生活において、度々以下のような「もの」の用例に当たる。

（1）巨人の宮崎キャンプで、休日の「6時だよ！全員集合」夕食が、チーム全体に義務づけられる。堀内監督が「みなさんの想像以上にきつい<u>もの</u>になる」と断言している今キャンプ。2003/10/30 報知

（2）日本シリーズ視察を終えた福岡で会見した指揮官は「練習に入れてみないと絶対にわからない<u>もの</u>がある。故障を持っているかとか、総合的に分析しないといけない」と、川相を秋季キャンプに参加させる理由を説明した。2003/10/21 報知

これは日本人のネイティブにとってごく普通で自然な日本語にしか見えないかもしれないが、中国語と対照する観点から言えば、該当する言葉にはこのような用法がないため、ささやかなカルチャーショックというような感じがすると言っても過言ではない。これらの例文を中国語的に言い換えると凡そ以下のようになるだろう。

（3）堀内監督が「みなさんの想像以上にきつい<u>内容</u>になる」と断言している今キャンプ。

（4）指揮官は「練習に入れてみないと絶対にわからない<u>問題</u>がある。故障を持っているかとか、総合的に分析しないといけない」と、川相を秋季キャンプに参加させる理由を説明した。

だが、翻訳することができないなんらかの意味合いが含まれていることも否め

ないので、このような「もの」の用法は相当日本語的な表現といってよいだろう。

以上の「もの」について、まず手元にある辞書（注1）を調べたところ、「もの」には「名詞」と「形式名詞」の用法に分かれていることが分かる。ここでいう「もの」はおそらく「人間の感覚・思考の対象となる有形・無形の物質や事柄一般」という名詞の用法に当たるのではないかと考えられる。しかし、使用条件についての記述としてはあまりにもあいまいすぎるようなものである。今までの研究でも、管見の限り、いまだに明確にされていないように見える。そこで、本稿は、このような、普通「物」と表記されない名詞の「もの」に注目し、この「もの」の本質的な意味を明らかにすることを主な目的とする。併せて、「物」「もの」の用法における全般的な意味のつながりを捉えることができればと思う。

2. 従来の研究

「もの」について従来の研究では、最も注目を浴びるのは文末に位置しているいわゆる「助動詞化」した「ものだ」の用法である。例えば、寺村(1984)、守屋(1989)、籾山（1992）坪根(1994)などがある。ただし、今日まで、辞書の記述や日本語教育の現場でも、一般的に紹介されている用法としては、1）本性・性質、2）当為、3）過去の回想、4）感情・感慨の4つである。

次によく研究されているのは「こと」と「もの」の関係を示すものである。たとえば、寺村(1981)、原田・小谷(1991)、益岡(2000)、『現代日本語文法4』(2003)などが見られる。

以上の研究では、坪根（1994）が「一般性」を軸として「助動詞化」した5つの用法の記述を試みているのが筆者が考案している研究方法と最も近い。ただし、坪根によって「助動詞化」した5つの用法の枠組みより抽出された共通の「一般性」という意味で、冒頭の例（1）（2）や次の例（5）のような文は説明しきれないと思われる。

（5）初めて来た。夜景がきれいで、湖もきれい。これからここが僕の街になるんだな、と感極まるものがあった。(2004/1/24 河北新報夕刊)

したがって、「もの」が備えている各用法間における意味のつながりについての考察が必要と考えられる。揚妻(1991)にはこの狙いがあったようであるが、その結果、実質的名詞としての「もの」と助動詞化した「もの」との意味的なつながりを考察したが、「もの」の全般的な意味のつながりには至らなかった。本稿は以上の問題点を踏まえ、まず、例（5）のような「もの」の意味合いを明らかにし、

さらに「もの」の各用法における意味のつながりを示したい。

3. 「もの」の本質的な意味－「形而上」－

「もの」の用法を検討する前に、先に名詞用法の中における筆者が問題としている「もの」と他の「もの」(便宜上、以下「物」と表記し区別する)の違いについて定義しておきたい。まず、辞書に記述されているように最大の分岐点としては、「物」は「ある空間を占め、実際に知覚できる物体、物品＜下線は筆者＞」(集英社 2000)であるのに対し、「もの」はより抽象的なものであり、「人間の感覚・思考の対象」を指すと言える。しかし、ここではより厳密に「特定の内容を有する」(注2)と「特定の内容を有していない」との対立ととらえたい。次に『現代日本語文法4』(2003)に述べている「ものだ」の「名詞の用法」と「助動詞の用法」についての規定もよい参考になるものであり、それに従いたい。すなわち、「物」はほかの実質的な名詞で置き換えても意味が変わらないのに対し、「もの」はほかの実質的な名詞で置き換えることはできるが、その意味以外に特別の意味合いが感じられる。「物」の例文を挙げると、例(6)のようなものであり、(7)のようにほかの実質名詞に変えても意味がさほど変わらない。「もの」の用例は冒頭にとりあげている例(1)(2)である。

(6)これは、手紙の封を切るものだ。(『現代日本語文法4』)

(7)これは、手紙の封を切る道具だ。(『現代日本語文法4』)

ただ、これについて「表記」も一つの参考指標になり得る。つまり、例(6)のような「もの」は「物」に表記されても差し支えないが、本稿で主に問題としている例(1)(2)のような「もの」はふつう漢字を書かないで、「もの」と表記する。

「物」と「もの」に関する定義の問題は一応解決案がついたが、次に「もの」の本質的な意味に迫りたい。その前に、以下のような例を見てみよう。

(8)今季は自己最多の61試合に登板し防御率1･77、7勝(無敗)1セーブと、中継ぎとして安定した成績を収めた。落合は「お金に代えられないものがチームにあった。すっきりした」と話した。2003/10/28報知

(9)中西氏も歯がゆさを感じ「いいものがあるのに、生かされていない」と話していた。将来のタイガースも見据えて、若手投手のレベルアップに取り組む。武器は41歳という若さ。2003/10/30日刊

(10)代理人は(プロ野球が)専門職じゃない。新聞に出るような数字で判断

するが、実際は目に見えないものがある。2003/1/11 報知

(11)今年は暖冬といわれておりますが、朝晩にはやはり厳しいものがありますので、どうぞ、お体のほうに気をお付けください。2003/12/6（荒巻保育所の発表会で父兄会の会長が挨拶した言葉）

(12)「感無量のものがある」。東北電力による計画撤回の正式決定を受け、記者会見した笹口孝明町長を見せた。2003/12/25 河北新報

(13)男に生まれ変わったら、一度はホストクラブで働いてみたいと思います。夜の世界はぜんぜん分かりませんので、なんだかあこがれるものを感じています。(2003/12/26)ラジオに寄せたメッセージ。

(14)2000 本安打という大記録を目の前にしながらも、打席に立つことすらできない焦りは相当なものだと思います。週刊ポスト 2004/2/6

(15)首相にとって、元日の靖国参拝に続く今年２度目の「初詣で」。首相は参拝後、伊勢神宮内で記者団の質問に答え、「伊勢神宮は何か霊気みたいなものを感じる。」2004/01/05 朝日新聞

「もの」の本質的な意味を解くために「もの」の前に位置している言葉に注目すれば有効である。「お金に代えられない」「いい」「目に見えない」「厳しい」「感無量」「あこがれる」「相当な」「霊気みたいな」などの言葉から実は共通の意味合いが抽出できることが分かる。すなわち、「形而上」という意味合いである。「形而上」は哲学の用語であり、『辞林 21』(1993) に述べているように「精神や本体など、形がなく通常の事物や現象のような感覚的経験を超えたもの。」（下線は筆者）という意味を表す言葉である。ただ、ここでは、哲学の用語と一応区別し、単純に「**想像を超えたもの**」という意味を表す名詞として使っていきたい。次によく考えてみると「もの」にもこれらが共通している「形而上」の意味合いが含まれていることが分かった。言い換えれば、この「もの」の用法には有形ないし無形の「実質名詞」の意味に「形而上」というような意味合いが加わったことが観察された。この「形而上」の存在を証するために、すべての例文の「もの」を意味的に最も近い実質名詞に変える上に、「形而上」の意味に似ている「相当」「非常に」「最高の」「予想(考える、思う)以上の」などの修飾語を加えて観察してみるとより鮮明である。例えば、例(８)を例(16)に変えてみると例(16)に示された文の意味は元の文が示したいものと非常に近いことが明白である。

(16)落合は「お金に代えられない思った以上の仲間意識がチームにあった。すっきりした」と話した。2003/10/28 報知

ただ、ここでもう1点注意すべきことはいわゆる「形而上」は評価と関係ないことである。マイナス評価でも、プラス評価でも、「想像を超えた」評価なら、どちらにも用いられる。例えば、

(17)あの人は最高だ。すごいものを感じる。(プラス評価)

(18)あの人は最低だ。むかつくものを感じる。(マイナス評価)

ここまでの論を整理してみると、「もの」には「形而上」の意味合いが含まれているので、直前に来る言葉も「形而上」のものが都合がよい、ということが判明した。最後にこの分析が妥当であるかどうかについてもう一度実験を行いたい。すなわち、「もの」の前に「形而上」ではない言葉をつけ、観察してみることにした。例えば、

?(19)あの人は普通だ。平凡なものを感じる。

(19)の例文は例(17)(18)と比べ、日本語としてはやはり不適格と判断すべきであろう。これで、「もの」の本質意味についての分析は適切であることを示唆したものではないだろうか。

以上、「もの」の「形而上」の意味を検討してきた。次節において、実質名詞を離脱した形式名詞の用法を考察していきたいが、しかし、結論的に言えば、その用法も基本的にはこの意味の延長線上におけるものである。

4. 「もの」の形式名詞用法の意味—「帰結」—

この用法では3節の「もの」の用法と最も違う点は実質名詞の素材概念が薄れ、「形而上」(正確に言えば、後に述べる「帰結」)の意味合いしか残らないところにある。以下の例を観察すれば分かるだろう。

(20)巨人の清原和博内野手(36)が事実上の代打専任となることが19日、分かった。堀内恒夫監督(56)が、開幕から不振を極める高橋由伸外野手(29)の代役としてロベルト・ペタジーニ内野手(32)を四番に固定する方針を固めたもので、自動的に清原はスタメン出場の機会を失うことになった。2004/4/20 スポーツニッポン

(21)歌手の松田聖子(42)とお笑いコンビ・とんねるずの石橋貴明(42)が異色ユニットを結成することが28日、発表された。石橋が聖子にデュエットを提案して実現したもので、7月にシングル「Smile on me」を発売する。2004/3/29 報知

(22)カード番号の入力は契約したものとみなされ、お客様に支払い責任が生

じる場合もあります。三井住友カードご利用代金明細書

(23)金を貸した相手に返済を迫っても、「そのうちに」としか答てくれなかったら、相手は返済する気がないものと思わなければならない。『入門語用論研究』

(24)独仏両国はイラク戦争反対で足並みをそろえ、ともに欧州連合（ＥＵ）のけん引役を自負しているだけに、今回の招待も両国の蜜月ぶりを示すものと受け止められている。朝日ネット記事 2004/01/03

(25)森氏と陳総統の会談について外務省幹部は、「政治家とは会わない私的な訪問だと聞いていた」としており、森氏側が内々に首相官邸に会談の予定を伝えていたものと見られる。2003/12/28 朝日ネット記事

(26)中国重慶市北東部の開県で昨年 12 月 23 日に起きた住民ら 200 人余りが死亡した天然ガス噴出事故で、中央政府の調査チームは、事故原因はガス田の作業員らの過失によるものと断定し、管理者の業務上過失責任を追及する。2004/1/4 朝日ネット記事

この「もの」の本質意味を記述するためには「もの」の前後の言葉に注目すべきだと思う。たとえば、例（20）（21)の「方針を固めた」「実現した」という言葉が示したように、「方針を固める」まではみんなもしくは監督自身が何度も打ち合わせや考えをめぐらした議論をした後、最後に達した「帰結」である。また、「実現した」ということも同様にいろいろと話し合いや準備をするプロセスを辿って最後に呈した「帰結」である。「帰結」であるため、「形而上」という含意にも通じると言える。両者の関係については以下のように認識することができる。すなわち、もともと内容が不明瞭で、一般人の想像を超えた「形而上」の概念を、多くの人の討議やたくさんのプロセスを経ることにより「帰結」という形に具現させた。言い換えれば、「帰結」は推論や努力などの過程により抽象概念である「形而上」をできるだけ具体化させたものである。したがって、「帰結」はもちろん「形而上」と一致している場合は十分可能性があるが、ときには推論などによるものであるため、非常に「形而上」に近づいているものの、「形而上」に等しくない可能性も考えられる。このように、「帰結」に達するまでの「プロセス」が含まれていることを強調しているので、「慎重性」「確実性」「覚悟性」などのニュアンスを示唆していることも窺える。

そして、例(22)(23)(24)(25)（26）に示されたような「もの＋と判断動詞」の用例を考察してみよう。「みなされる」「思う」「受け止められている」「断定する」

まで、やはりある程度の考えや話し合いのプロセスが必要であろう。したがって、この「もの」も「帰結」の用法とみなしていい。例（25）のような「もの＋と見られる」の用例も同じような解釈で説明できる。ここの「見られる」はいわゆる「自発動詞」であり、つまり、誰しも自然にこのような見方をするので、やはり「帰結」の用法と認識すべきであろう。もちろん、「もの＋とみる」の用例もよく見られるが、いずれにせよ、「見る」も「見られる」もこのような文では「判断動詞」という機能が働いているので、分析には支障を及ぼさないと思われる。富阪（1999）における新聞調査では、「もの＋と見られる」は「もの＋とみる」より５倍と圧倒的に多いこともこの分析の妥当さを裏付けたものであろう。

以上に示した例文は新聞にはよく用いられるものである。新聞は我々に事件、事態の経緯を報道する文章であり、当然、その一環としてこのような結論を伝える文の多用も納得できよう。

次に、「帰結」の分析が妥当であるかどうかについてもう少し考えてみる。「帰結」と最も似ている実質名詞には「結果」「結論」「結末」があると考えられる。前述した例の「もの」をすべて例（27）のように「結末」などに変える操作をし、元の文と比較してみると、「帰結」のニュアンスがより鮮明になる以外に文自体の意味はさほど変わるとは思えない。

(27) 堀内恒夫監督（56）が、開幕から不振を極める高橋由伸外野手（29）の代役としてロベルト・ペタジーニ内野手（32）を四番に固定する方針を固めた結末で、自動的に清原はスタメン出場の機会を失うことになった。
2004/4/20 スポーツニッポン

また、形式名詞の「もの」はすべて削除しても文としては成り立つ。ただ、「帰結」という含意がなくなるのみである。例えば、例（26）を例（28）に変えてみると分かる。すなわち、「もの」により伝わっている「帰結までのプロセス」「慎重性」というニュアンスが薄くなり、単なる事実を報道するような報道文になった。

(28) 中国重慶市北東部の開県で昨年12月23日に起きた住民ら200人余りが死亡した天然ガス噴出事故で、中央政府の調査チームは、事故原因はガス田の作業員らの過失によると断定し、管理者の業務上過失責任を追及する。

上記の２つの操作により「帰結」の分析が成立し得ると言えよう。最後にこの分析の適切さを証明するため以下のような簡単の例をあげ、もう一度吟味してみる。

(29) 私は彼が来ることを信じて待っています。

(30)私は彼が来るものと信じて待っています。

この２つの文を比べてみると、例（29）については話者は単なる「彼が来る」事柄を信じているしか表さないのに対し、例（30）では話者が「彼が来る」という事態を何らかの原因やプロセスにより結論として思い込んでいる感はある。すなわち、「あなた（たち）は信じないかもしれないが、わたしは彼がかならず来ると信じる」というような「確実性」の含意が感じられる。換言すれば、話者はほかの人の考えている以上に「彼が来る」ことを確信している。この観察により、この用法に対する分析の妥当性が証明されたのみではなく、「帰結」と「形而上」の関係もより明確に示されたのではないかと思われる。

５．　助動詞化の用法

まず、断っておきたいのは、ここでいう「助動詞化」の用法は必ずしも定着された概念ではないことである。学者によって文末用法に帰属させる見方もあれば、形式名詞の用法に分類する人もある。ただし、この用法を４節の「形式名詞用法」に比べ、「ものだ」は「もの＋だ」に分析するより、「ものだ」を一つの品詞に見なしたほうが適切であると思われる。というのは、例（23）（24）などにおける「もの」は「だ」が省略されたものだが、助動詞化した「ものだ」の「だ」は殆ど省かれない。さらに、助動詞化の「ものだ」は大体文末に位置しており、口語では「もんだ」によく変えられるが、形式名詞の用法では、「もんだ」はあまり用いられないという言語事実によるからである。したがって、ここでは寺村（1984）の説に従い、「助動詞化の用法」としたい。

以下、今まで考察してきた「形而上」「帰結」という意味の観点から、簡潔に２節の先行研究に示した従来よく指摘されてきた「助動詞化」した４つの用法の説明を試みる。

5.1　本性・性質

この用法の多くは話者や人類にとって社会の通念や一般的な認識をしている事柄や真理などのようなものである。したがって、だいたい何回もの経験を積み重ねることにより形成されてきた通念や信念なので、やはり「帰結」という意味合いによって説明が通せるのではないかと考えられる。例えば、

(31)故障した選手は、プレーが慎重になりがちなものだ。2004/5/7 報知

(32)人はお世辞に弱いものだ。（辞林 21）

「故障した選手は、プレーが慎重になりがちだ」「人はお世辞に弱い」という事

柄はいずれも多くの経験や何回もの証明を経て達した共通概念や認識である。換言すれば、本稿で主張している「帰結」という意味である。

5.2 当為

この用法は寺村(1984)において「理想の姿、当為を表す」とされている。例えば、以下のような例がある。

(33)人に会ったらあいさつぐらいするものだ。(『日本語教育事典』)

また、この用法に関しては一般的に5.1の「本性・性質」からの転用と位置付けられているようである。例えば、寺村(1984)に「本性をいう形をとって「かくあるべし」という当為、または理想の姿を主張する言いかたである。」と記述されている。この説明を例(33)に当てはめてみると正しいかもしれない。つまり話者は「人に会ったらあいさつぐらいする」という命題に対して、<一般的傾向性>(籾山1992)あるいは社会通念などと認識するうえで、相手に行動することを要求する。しかし、下のような例文を見るとこの説明の妥当性に疑問が感じられる。

(34)女性はデートに遅れていくものだ。いつも先に行って待っているとなめられるよ。(籾山1992)

この例においては「女性はデートに遅れていくものだ」という事柄は決して社会の一般的な考え方とは言いがたい。これはせいぜい話者にとって一種の「個人の理想の姿」「個人の信念」にすぎない。よって、この用法も、今まで述べてきた「帰結」という意味合いによって解釈できるが、5.1の「帰結」とはレベル的に違うことを指摘したい。すなわち、ここの「帰結」は「社会の通念や一般的な認識」ではなく、「個人の信念」である。要するに、話者個人にとって「理想の姿」「信念」である事柄を相手に実現させるよう要請する。5.1と5.2の用法の違いもこの「社会の通念」と「個人の信念」によって生まれた。

5.3 過去の習慣・回想

この用法は単なる過去の習慣や回想ではなく、脳裏に残る事態や事柄は非常に印象深いものしか使われないことが特徴である。寺村(1984)も「単に、過去に常態であったこと、くりかえしあったことを述べる言いかたではなくて、ある特別の感慨、なつかしさをもって過去をふりかえる情緒的な要素がなければ成立しない。」と述べている。「過去の習慣」「くりかえしあったこと」によって示されたように、過去の一定期間において常態的に起こった事柄なので、これも「帰結」と認識することができよう。さらに、「ある特別の感慨、なつかしさ」という気持ちを持たなければならないので、「形而上」の意味も機能している。したがって、この

用法は前述してきた「形而上」「帰結」の両方の意味によることがわかる。例えば、

(35) 戦争中、罪の批判でもしようものなら、すぐに憲兵につれて行かれたものだ。(坪田 1994)

(36) 昔はこの川でもたくさん魚がつれたものだ。(『日本語教育事典』)

例 (35) では、話者は「戦争中、罪の批判でもしようものなら、すぐに憲兵につれて行かれた」という戦争中に限る必然的な事柄(帰結)を述べるのみではなく、その記憶には「想像を超えた」とても怖いものが秘めていることを伝えようとするのである。また、例 (36) においても「昔はこの川でもたくさん魚が釣れた」という過去のある恒常的な事態を伝達する以外に、今の時代には二度と経験できない非常によい思い出を示したいだろう。

5.4 感情・感慨

この用法に関しては籾山 (1992) にも言及されているように、森田・松木(1989)に、「希望の助動詞「たい」をうけて、その事柄の実現を強く望む話し手の気持ちを詠嘆的に表現する。「ものだ」のみで、感動・詠嘆・驚きなどを表す終助詞的な表現と見なすこともできる。(下線は筆者)」という記述が見られる。この記述における「強く望む」という言葉から分かるようにこの用法も「形而上」という含意によって成り立つものである。特に寺村 (1984)にも「自分の想像を越えた (下線は筆者) 出来事に対して、感動したりや驚いたりしたときに、その心情を述べる表現」と述べているため、一層「形而上」との関連を示しているように見える。また、揚妻(1991)にも若干指摘されたように、この用法は話者が心の中で確認し改めて示した感情表現の時に用いられる。よって、この用法も「形而上」の意味のみではなく、「帰結」の意味も作用していることが確認された。例えば、

(37)確かに記録とは素晴らしいものだ。しかし、人々が王さんを認識する上で、記録だけでなく必ずチャンピオンという言葉が伴ってくる。僕はいまだ日本一になった経験がない。2004/1/11 報知

(38)置いたゴミはすぐにあのお婆ちゃんに持っていかれて困ったものです。

(39)アメリカに来てもう 10 年か。早く日本に帰りたいものだ。(坪田 1994)

例(37)では、「すばらしい」という言葉からわかるように「記録」は話者にとってかなり大切で、求めているものである。さらに「確かに」という言葉が示したようにこれは話者が気持ちを確認した上で、改めて結論的に示した感情表現であろう。また、例(38)では、まず「困る」という言葉から理解できるが、話者はお婆ちゃんの行動を「想像を超えた」常識はずれのものととらえているのである。さらに

その常識はずれの反復行為に「本当に困っている」というようなニュアンスが感じられる。なぜなら、この例では「困った」気持ちも明らかに話者が「心の中で確認し改めて示した感情」であることが分かるからである。要するに揚妻（1990）に述べているように「この「モノだ」文は、直感的驚きというよりも、何らかの知的判断を経た上での詠嘆なのだ。」。例(39)も同様に「日本に帰りたい」という事柄は話者にとって「最高の願望」であり、強く実現したい気持ちを結論として聞き手に伝えている。このように、この用法も「形而上」「帰結」の含意に由来することと結論付けられよう。

6. おわりに

ここまでの分析から分かるように、「もの」の全体像は以下のように把握することができる。すなわち、まず、内容が特定できる「物」の用法を有する。そこから、同じく名詞であり、内容が特定できない「形而上」の「もの」の用法が発生した。そして、「もの」の実質名詞の素材概念が薄れ、その延長的な用法として「帰結」という「形式名詞」の用法が生まれた。さらに、「形式名詞」の「もの」が助動詞化した「ものだ」の用法を生み出した。ただし、この用法も名詞の「もの」の本質意味及びその展開した形式名詞「もの」の意味に由来することが分かった。これを図式にすれば、凡そ図1のようである。

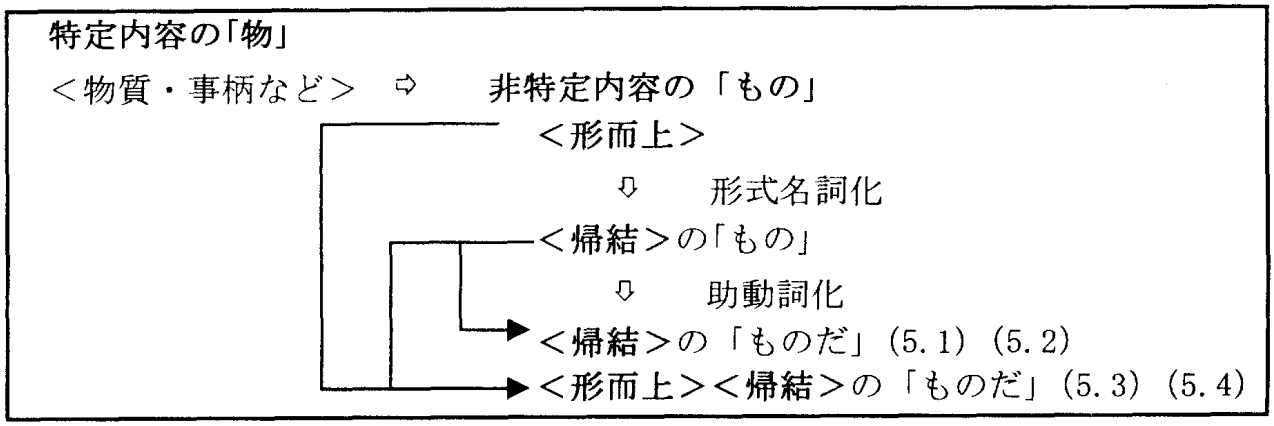

図1 「モノ」の各用法における意味のつながり

ただ、本稿の目的は歴史の解明ではなく、図1に示したように、「もの」の本質意味である「形而上」とその展開の意味である「帰結」は如何に各用法においてつながっているか、ということを明らかにすることにある。すなわち、各用法を統一的な意味で捉えようとすることである。したがって、それ以外のことにはあまり立ち入らないことにし、また、細かい用法にもこだわるものではない。

だが、その本質の意味を形成する背景にある原因を究明するには至らなかった。

これについて寺村（1984）に言及されているものは解明の糸口になるかもしれない。すなわち、折口信夫氏は「ものは、極抽象的で、姿は考へないのが普通であった。」と述べ、「もの」を古代の代表的な信仰の対象の一つとしている説である。また、終助詞との関係、「ものにする」などの言い回し、「～ものだから」などの理由を表す用法についての考察は不十分であるため、今後の課題としたい。

注

1） 森岡健二他『集英社　国語辞典　第２版』(2000) 集英社

2） 籾山(1990)は「何らかの具体的な形を有するような存在・対象」とする。

参考文献

揚妻祐樹（1991）「実質名詞『もの』と形式的用法との意味的つながり」『東北大学文学部日本語学科論集　第１号』東北大学

小泉保(2001)『入門語用論研究―理論と応用―』研究社

坪根由香里（1994）「「ものだ」に関する一考察」『日本語教育』84

寺村秀夫（1981）「「モノ」と「コト」」『馬渕和夫博士退官記念国語学論集』大修館書店

寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版

富阪容子（1999）「新聞記事に見られる断定保留表現」『言語文化３』甲南大学

日本語教育学会（1987）『日本語教育事典縮刷版』大修館書店

日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法４』くろしお出版

原田登美・小谷博泰（1991）「日本語「もの」と「こと」」『甲南大学紀要―文学編 84』

益岡隆志(2000)『日本語文法の諸相』くろしお出版

松村明他（1993）『辞林 21』三省堂

盛岡健二他(2000)『集英社　国語辞典　第２版』集英社

森田良行・松木正恵(1989)『日本語表現文型』アルク

籾山洋介（1990）「現代日本語「モノ」の諸相『Litteratura 11』名古屋工業大学外国語教室

籾山洋介（1992）「文末の「モノダ」の多義構造」『名古屋大学言語文化部言語文化論集第XIV第１号』

守屋三千代（1989）「「モノダ」に関する考察」『早稲田大学日本語教育センター紀要』

守屋三千代（1990）「形式名詞の文末における用法について」『津田塾大学紀要 22』

―東北大学大学院生―